

高浜市長 所信表明演説(令和3年9月議会)

令和3年9月21日

【はじめに】

本日、ここに令和3年9月市議会定例会の開会にあたりまして、4期目就任のごあいさつと所信の一端を述べさせていただき、議員各位をはじめ、広く市民の皆さまの、ご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私は、さきの市長選挙におきまして、市民の皆さまをはじめ各方面からの御推薦と力強い御支援を賜り、無投票での再選をさせていただきました。社会全体が新型コロナウイルス感染症の猛威に長期間さらされる中、感染拡大防止と社会経済の回復という大役を託していただき、身が引き締まる思いがするとともに、四期目に向けての決意を新たにしているところでございます。

市長として三期12年間、わがまち高浜の今をアシタにつなぐという目的に向けて、未来の世代のために何をなすべきか。10年、20年先の長期経営の視点に立ち、持続可能な高浜市のために何ができるか、何をしなければならないか、常に未来を見据え、市民の皆さまとともにまちづくりに全力で取り組み続けてまいりました。この想いは12年経った今も変わらず、むしろこれまでよりも大きくなっております。

とりわけ、三期目の4年間では、将来を見据えた財政運営のために、小学校へ機能を複合化・集約化することで、施設の総量をコンパクトにしながら、子どもから高齢者まで、小学校区の住民、市民が集う地域活動拠点のモデル事業となる高浜小学校等整備事業が完成を迎え、これから高浜市が目指していく姿を目に見える形として市民の皆さまにお見せできたのではないかと考えております。くわえて、愛知県内の自治体では最も早く全小中学校児童・生徒に一人一台のタブレット端末を整備し、コロナ禍においても子どもたちへの教育を止めることのないよう、そしてデジタル社会の進展に対応していけるようGIGAスクール構想、ICT教育の推進に注力してまいりました。三期目の所信表明で宣言をさせていただきましたように、次の時代につないでいくための未来への投資に取り組んできた、そんな4年間でありました。

しかしながら、社会の動きは非常に早く、そして予期せぬような事態もおとずれます。市民生活や社会経済に大きな影響を及ぼし続けている「新型コロナウイルス感染症」の発生をだれが予測できたでしょうか。これほどまでに長引き続けることも想定外のことであったのではないのでしょうか。そうした状況を憂いても、急激に状況が改

善をするわけではありません。非常に厳しい状況でも我々は生きていかなければなりません。これから生きていく子どもたちに明るい未来をつないでいかなければなりません。それには、私一人の力ではできません。行政の力だけでもできません。この難局を乗り越えていくためには、これまで紡いできた市民4万9,000人の大家族が思いやり、支え合いの精神を持って、ともにまちをつくっていく、つむぎ、つないでいくという思いが必要不可欠であります。

そして今後は、国際社会共通の目標であるSDGs（持続可能な開発目標）の「誰一人取り残さない」というコンセプトを施策全般に浸透させ、新たに発生する課題に積極的に取り組んでいくことも重要になってまいります。

これから臨む4期目の4年間、新たな息吹も吹き込みつつ、これまで市民の皆様と共に培ってきた多くの財産、そして、ともに育んできた私たちのまちへの想いを、アシタにつないでいくため、4つの政策を進めてまいります。

【4期目の取り組みについて】

はじめに「**ともに歩むまちづくり**」でございます。

私の12年間のあゆみは、常に市民の皆さまに支えられてまいりました。市民の皆さまのご協力とご理解が、今の高浜市のまちづくりの根幹であると考えており、それはこの先も変わることはないと思っております。ペイフォワード（自分が受けた恩を、自分も他の人にお返しする。お互い様の連鎖・恩送り）の想いを、これからの未来につなげていくことが大切であります。

計画期間の満了を迎える総合計画では、高浜市の目指す将来のまちの姿を、生涯学習基本構想では、高浜市を支える人を育む方向性を、教育基本構想では高浜市のアシタのチカラである子どもたちの学びの姿をお示しし、その実現に向けたそれぞれの計画を市民の皆さまとともに策定してまいります。

まちづくりの根幹は「人」でございます。まちをつくり、まちを育てる人、その人と人のつながりを大切にし、これからのコミュニティの在り方を皆様とともに考えてまいります。

健全財政を維持しつつ、市民サービスを低下させることなく、より向上させていくために、将来を見据えた財政計画をもとに、公共施設の適正な管理を進め、限りある財源を将来につなげてまいります。また、そのためにも、行政サービスのデジタル化・ペーパーレス化を推進するとともに、更なるマイナンバーカードの普及も合わせて促進してまいります。

また、多方面でデジタル化が加速する中、情報の発信・情報の共有は、動画やSN

Sなどを今以上に活用し、市政に関する情報をわかりやすく、迅速に、より積極的に発信することに取り組み、市民の皆様との情報共有を図ってまいります。

次に、「**未来につなげるまちづくり**」でございます。

わたしたちの高浜市を将来へとつなぎ、発展させていくのはこれから高浜市を支えていく若者たちです。若い世代が夢と希望を持って、未来に力強く羽ばたいていけるような環境を整えていくことが高浜市のアシタへとつながってまいります。

そのため、一人ひとりの教育的ニーズに応じた、きめ細かな指導を可能とする指導体制と安全で安心な教育環境を構築するために、小学校全学年における35人学級を実現させるとともに、高取小学校の大規模改修をはじめとした、子どもたちの教育環境の向上に努めてまいります。

また、子育て、子育てを支えていくためには、働きながら、安心して子どもを産み育てることができる環境を整えていくことが大切であります。そのため、多種多様な働き方に合わせた子育て環境の整備をより一層加速し、待機児童ゼロの実現を目指してまいります。

さらに、私が初就任の後、着手した高浜市自治基本条例の策定から10年が経過をいたしました。

当時、小学校6年生に対して、自分たちのまちは自分たちでつくるというまちづくりの理念を伝えるべく出前授業等により啓発を行っておりましたが、その当時の子どもたちも22歳、社会に出て働く世代となっております。

今、芽吹きつつある若い世代が高浜市のために何かしたいという想いを具現化できるよう、既存の市民予算枠事業を若者のチャレンジを応援できる仕組みへと見直ししてまいります。

さらに、本市の特徴でもある県内トップレベルの外国人比率の状況を踏まえ、外国人の方にも住みやすく、暮らしやすい、多文化共生のやさしいまちづくりを推進してまいります。

そして、大切なまちの資産であり、情報の発信源である、かわら美術館や図書館については、これからの高浜市や市民の皆さんにとって必要な機能に着目し、市民の皆さんの暮らしや活動を支えるもの、より身近なものとして、高浜らしさを踏まえて、今の形態にとらわれず、そのあり方を検討するとともに、実現を図ってまいります。

次に、「**まちづくりを支える社会基盤づくり**」でございます。

新型コロナウイルス感染症は社会経済に非常に大きなダメージを与えており、市民

生活の基盤である産業の安定が危ぶまれています。そのため、新型コロナウイルス感染症の終息後、アフターコロナを見据え、社会経済の再活性化に取り組んでまいりたいと考えております。

そのためにも、引き続き新たな雇用を生み出す工業用地の整備や企業誘致等といった地域経済の活性化に積極的に取り組んでいくとともに、新しい労働のカタチとして、身体や精神に障がいのある方が、高齢化している農業現場での貴重な働き手として社会参画し、自信や生きがいの創出、生活の質の向上につながるよう、農福連携を研究してまいります。

また、私たちの日常生活に脅威を与えるのは新型コロナウイルスだけではありません。近年では、線状降水帯の発生など局地的集中豪雨等をもたらす自然災害も全国各地で多発しております。そうした水害への対応として八幡町・新田町における雨水排水対策への取り組みを推進し、安全・安心への強化を図ってまいります。

加えて、交通基盤の整備、渋滞対策事業として、衣浦大橋のトラス橋の架け替えの早期実施を目指して、引き続き、関係市町とともに愛知県への働きかけを行ってまいります。

そして、新型コロナウイルス感染症により影響を受けている地域経済の回復・活性化と地元企業の成長を支えていくとともに、サービスの向上や雇用環境の適正化を図り、かつ公共事業の透明性等を一層高めていけるよう検討してまいります。

次に、「だれもが安心して暮らせるまちづくり」でございます。

現在においては、何よりも新型コロナウイルス感染症対策が最重要課題であります。感染拡大や重症化を防ぎ、市民の命を守るために、ワクチン接種の早期完了に向け、迅速かつ着実に取り組んでまいります。

また、コロナ禍においても災害はいつ起こるかわかりません。災害が発生した際の個々の避難行動計画「マイ・タイムライン」の普及やコロナ時代に対応した避難所運営訓練、企業との連携強化、地域人材の育成など、自ら守る、地域で守る防災体制の構築を推進してまいります。

障がいのある人もない人も安心して生活できる社会の実現を目指し、手話は言語であることを明確にするとともに、手話の普及啓発や施策推進に努めることを目的とした、手話言語条例を制定し、手話がどこでも自由に使える地域社会を目指してまいります。

超高齢化社会を迎えるにあたり、地域ではますます高齢化が進んでまいります。高齢者の方も引き続き、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように、ICT

による医療と介護の連携ツール「えんjoyネット高浜」の活用を進め、介護が必要になっても家庭で生活ができる仕組みを整備してまいります。

また、お子さんの発達を支える保育・療育・教育・福祉サービスの各分野において、発達支援の連携強化を進めるとともに、支援が途切れることのないよう、小中学校9年間の健診結果を確認できる健診情報アプリや電子母子手帳により、産前産後からライフステージに応じた発達をサポートしてまいります。

ただいま申し上げましたとおり、私のまちづくりの根幹、私がつないでいきたいまちづくりへの想いは、これまでも、そしてこれからも変わることなく『私のまち高浜市は』と一人称で語れるような“まち”にしたいという想いでございます。

先に開催をされました東京オリンピック・パラリンピック、その中でも東京2020パラリンピックの聖火リレーコンセプトを皆さんご存じでしょうか。

「Share Your Light / あなたは、きっと、誰かの光だ。」です。

そこに込められた想いは、パラリンピック聖火リレーを通じて、多様な、そして社会の中で誰かの希望や支えとなっている光（人）が集まり、出会うことで、共生社会を照らす力としようという想いが込められているとのことです。

まさにこれから我々が目指していきたいまちの姿・想いと同一であります。

たかはまの子どもたちが、ともに声を出し合い、ともに考え、助け合い、仲間をつくり、知恵を出し合い、“まち”とともに成長していく。その中でだれもが誰かを照らす希望の光となっていくと思っております。

そして、身近で子どもたちをあたたく見守り、サポートをしてくださる地域の皆さまの姿が垣間見える、幸せなまち「大家族たかはま」をこれからもつないでいくため、わたくしは今一度、市民の皆さまと一緒に歩みを進めてまいります。

【おわりに】

以上、4期目の市政運営にあたり、私の所信の一端を申し述べさせていただきましたが、これらの実行にあたっては議員各位、並びに市民の皆さまのより一層のご支援・ご協力なくしては、成し得ることはできません。今後ともより一層のご指導・ご鞭撻を賜ることをお願い申し上げ、所信表明とさせていただきます。